

株式会社ツムラ

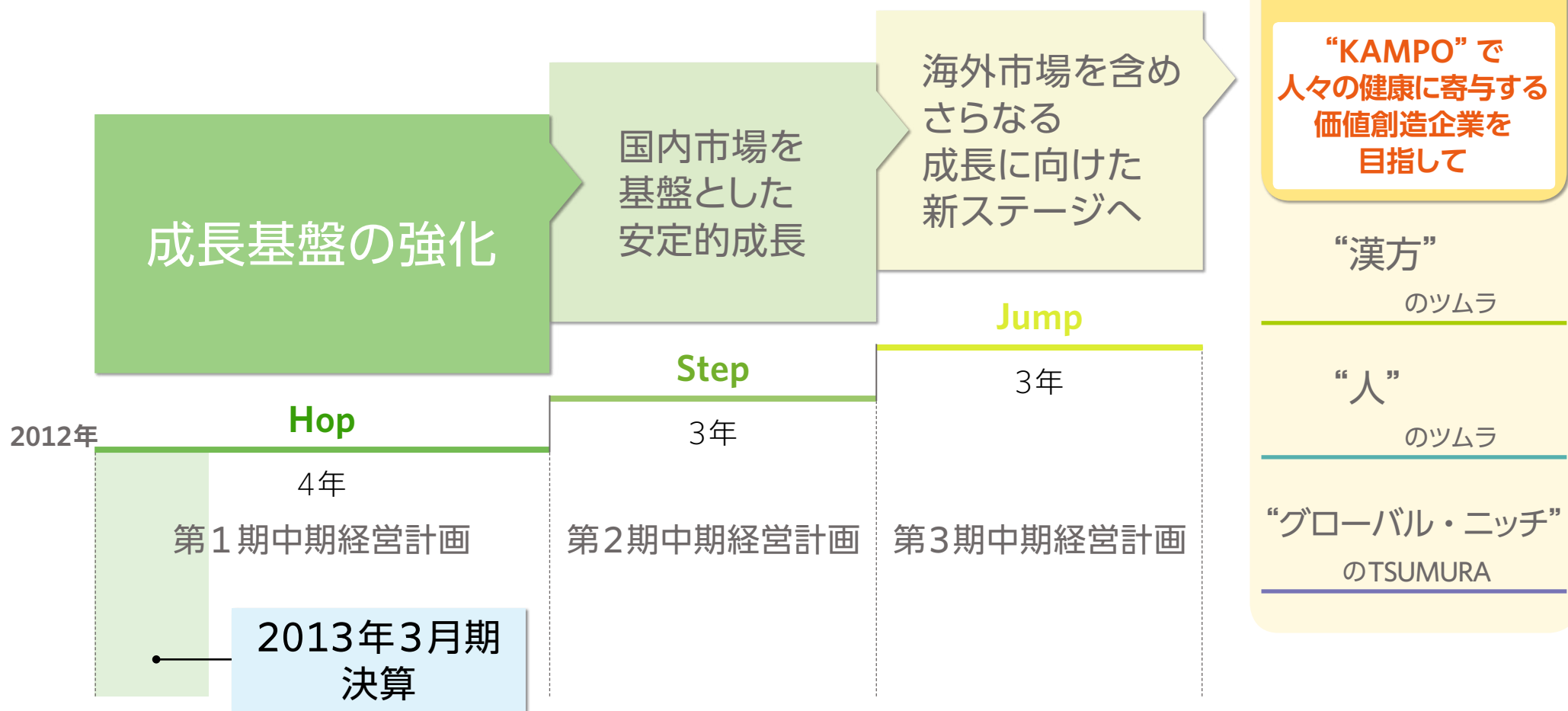
2013年3月期 決算の概要

2013年5月10日(金)

代表取締役社長
加藤 照和

2013年3月期決算の位置づけ

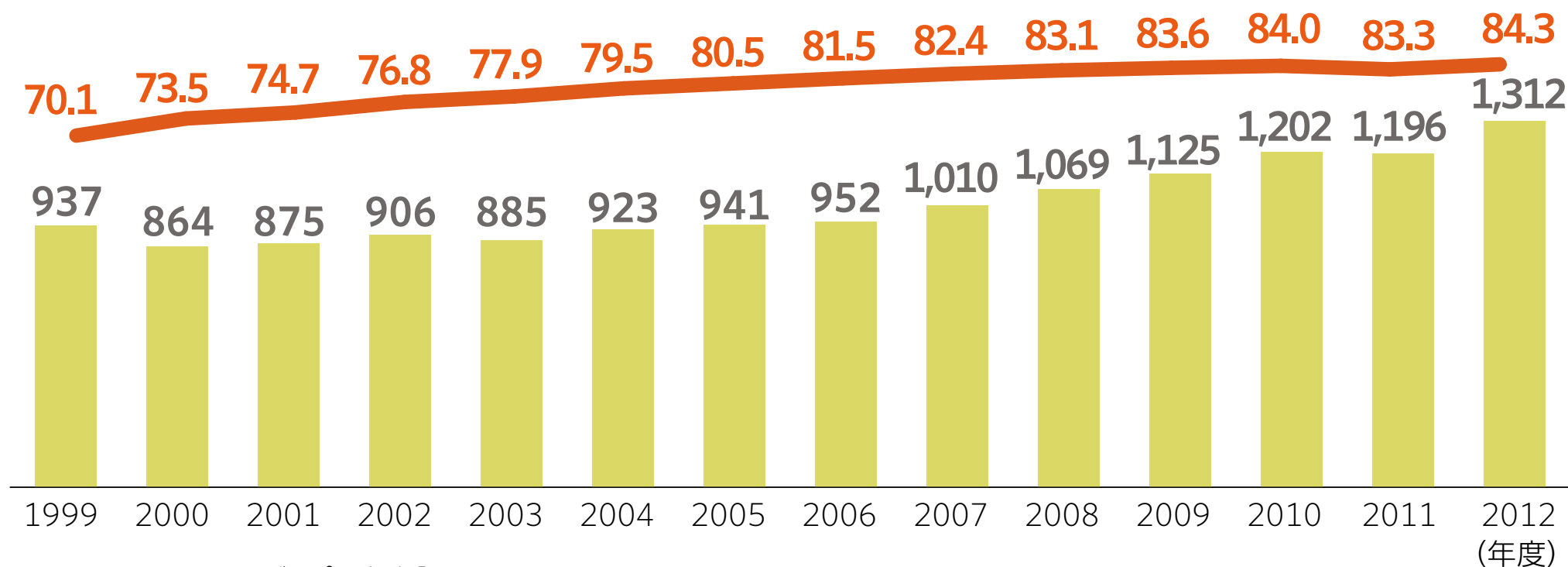
長期ビジョン実現への第1年目



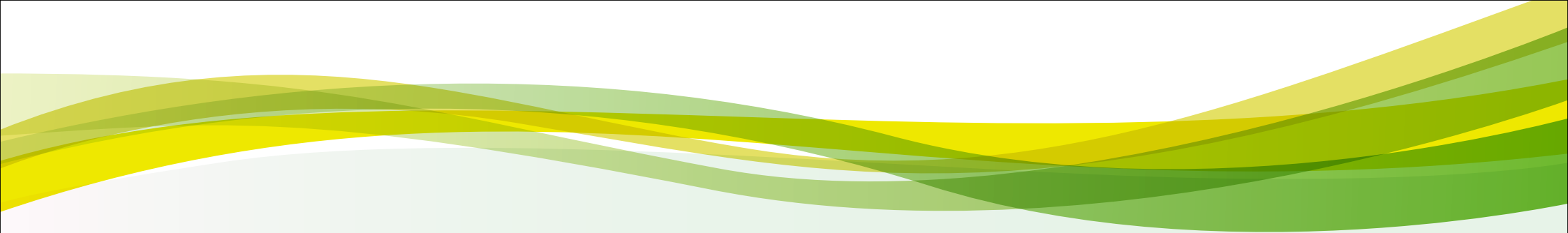
医療用漢方製剤の市場動向

2012年度の当社を含めた医療用漢方製剤全体の市場は、
薬価ベースで1,312億円

■ 市場全体 (億円)
— ツムラシェア (%)



Copyright 2013 IMSジャパン (株)「JPM2000年3月MAT～2013年3月MAT」をもとに作成
無断転載禁止



2013年3月期決算

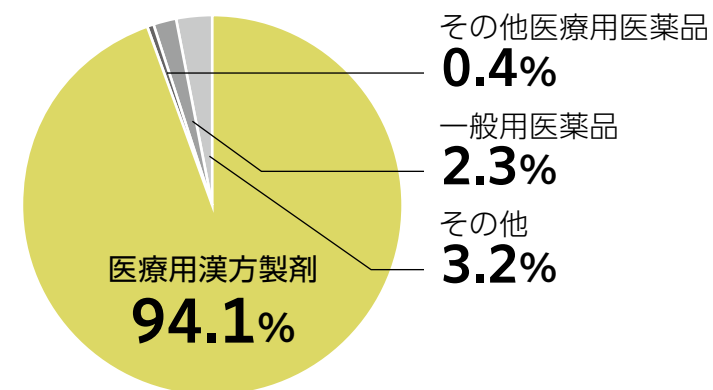
2013年3月期連結決算の概要

(百万円)

	計 画 (2012.11.8修正)	当期	計画比		前期比	
			金 額	増減率	金 額	伸長率
売上高	104,500	105,638	1,138	1.1%	10,188	10.7%
営業利益	22,800	23,124	324	1.4%	1,891	8.9%
経常利益	22,900	24,310	1,410	6.2%	2,527	11.6%
当期純利益	14,400	15,373	973	6.8%	1,941	14.5%

	計 画 (2012.11.8修正)	当期	前期
営業利益率	21.8%	21.9%	22.2%
配当金 (1株当たり)	62円	62円	60円
EPS	—	217.98円	190.45円
ROE	—	14.1%	14.1%

売上高構成比



2013年3月期決算のポイント

売上高 **105,638百万円** 計画比 **+1.1%** 前年比 **+10.7%**

**薬価改定▲3.8%の影響を受けるも、129処方中125処方が前年比売上プラス
医療用漢方製剤の順調な売上により計画を上回る**

- ・ MR訪問活動の強化（未面談医師への訪問など）
- ・ 漢方医学セミナーや医局説明会等の開催回数増加
- ・ 育薬5処方合計の売上伸長率：14.4% 育薬以外124処方合計の売上伸長率：9.3%

営業利益 **23,124百万円** 計画比 **+1.4%** 前年比 **+8.9%**

営業利益率 **21.9%** 計画比 **+0.1pt** 前年比 **▲0.3pt**

- ・ 売上原価率は34.0%（計画値33.9%） 薬価引下げ、原材料単価増等の影響により前期比2.6ptアップ
- ・ 販管費率は44.1%（計画値44.3%） 売上伸長および経費効率化等により前期比2.3ptダウン

経常利益 **24,310百万円** 計画比 **+6.2%** 前年比 **+11.6%**

- ・ 円安による為替差益（中国子会社への貸付金）を営業外収益に計上

当期純利益 **15,373百万円** 計画比 **+6.8%** 前年比 **+14.5%**

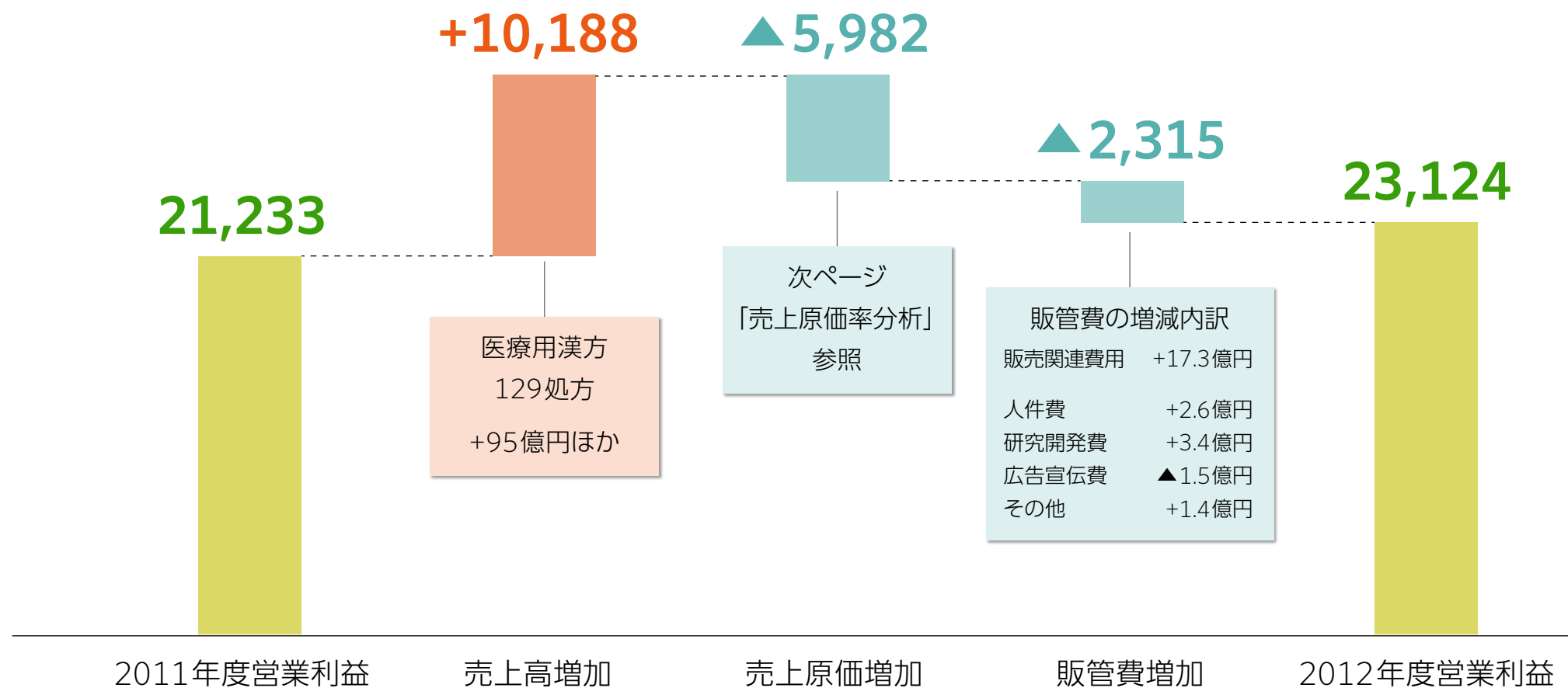
医療用漢方製剤 売上高トップ^o10

は育薬処方 (百万円)

順位	処方名	主な効能・効果	2012年度	2011年度	比較増減	
1	大建中湯	腹痛・腹部膨満感	9,094	8,383	710	8.5%
2	補中益気湯	病後の体力増強・食欲不振	6,567	5,885	681	11.6%
3	六君子湯	胃炎・消化不良・食欲不振	6,163	5,314	849	16.0%
4	抑肝散	神経症・不眠症	6,041	4,748	1,293	27.2%
5	加味逍遙散	冷え症・更年期障害・月経不順	4,102	3,700	402	10.9%
6	麦門冬湯	咳・気管支炎・気管支喘息	3,879	3,453	426	12.3%
7	芍薬甘草湯	筋肉の痙攣を伴う疼痛	3,803	3,456	346	10.0%
8	牛車腎気丸	腰痛・下肢痛・しびれ・排尿困難	3,783	3,564	218	6.1%
9	柴苓湯	むくみ(浮腫)・急性胃腸炎	3,358	3,228	129	4.0%
10	小青竜湯	鼻炎・アレルギー性鼻炎・アレルギー性結膜炎	2,949	2,608	341	13.1%
—	半夏瀉心湯	口内炎・神経性胃炎・醗酵性下痢	1,120	902	217	24.0%
医療用漢方製剤129処方計			99,457	89,964	9,492	10.6%
育薬5処方計			26,203	22,913	3,289	14.4%

営業利益の増減要因

(百万円)



売上原価率分析

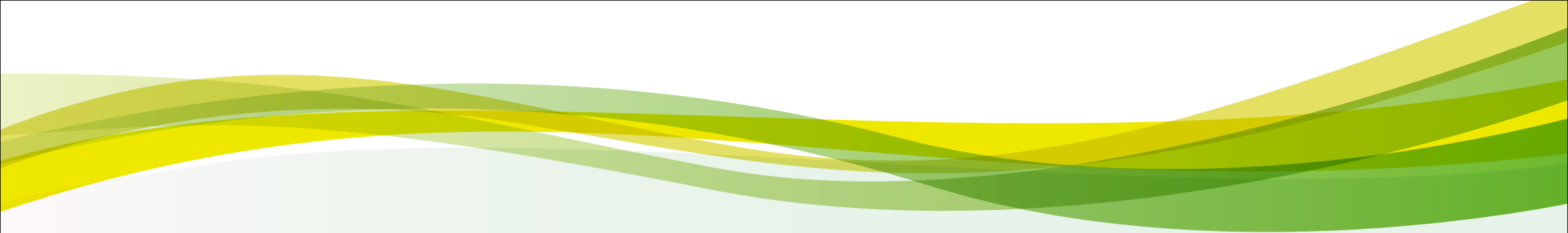
計画 (2012年11月8日修正) 比 **33.9%** ▶ 2012年度 **34.0%** **ほぼ計画通り**
2011年度 (前期) 比 **31.4%** ▶ 2012年度 **34.0%** **2.6pt増**

要因	影響度
生薬価格高騰	2.0pt
薬価改定	1.0pt
その他 (生産性向上等)	▲0.4pt
計	2.6pt

たな卸資産の増加分析

(億円)

B/S	2011年度末	2012年度末	数量増による影響	生薬単価による影響	前期差
たな卸資産	305	354	16	33	49
(製品)	61	68	3	4	7
(仕掛品)	78	83	2	3	5
(原材料)	166	203	11	26	37



戦略課題への取り組み・進捗状況

1.漢方市場の拡大

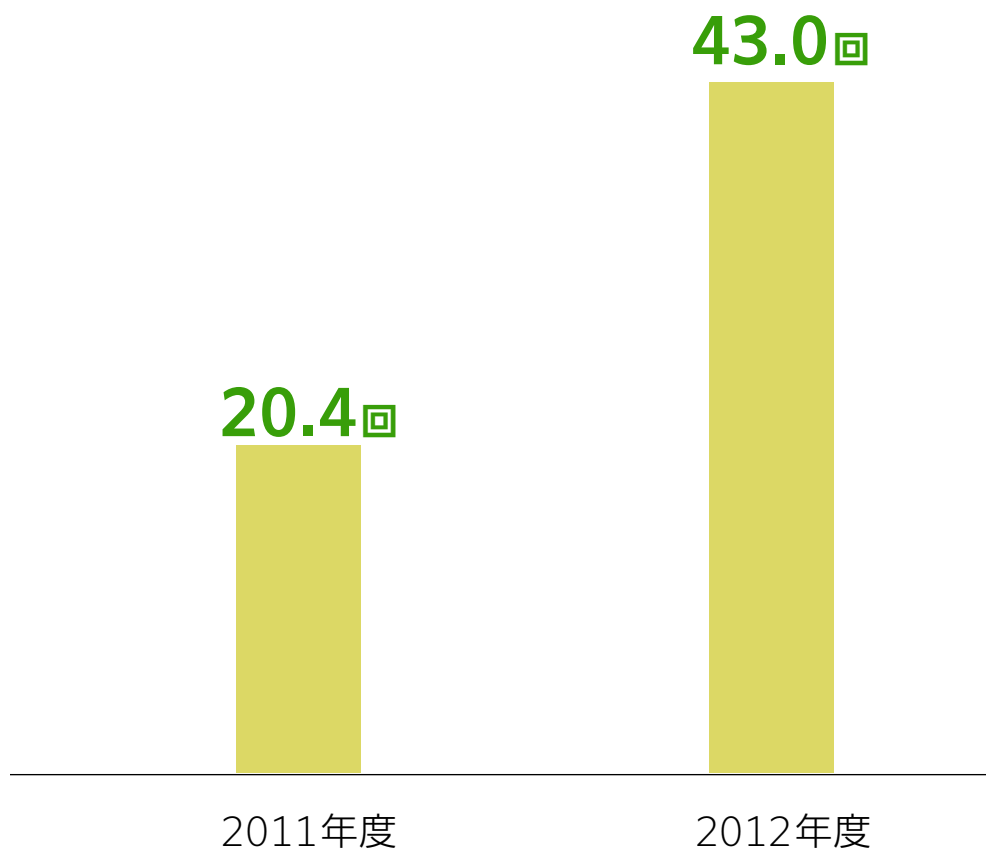
2.収益力の強化

3.財務・資本政策

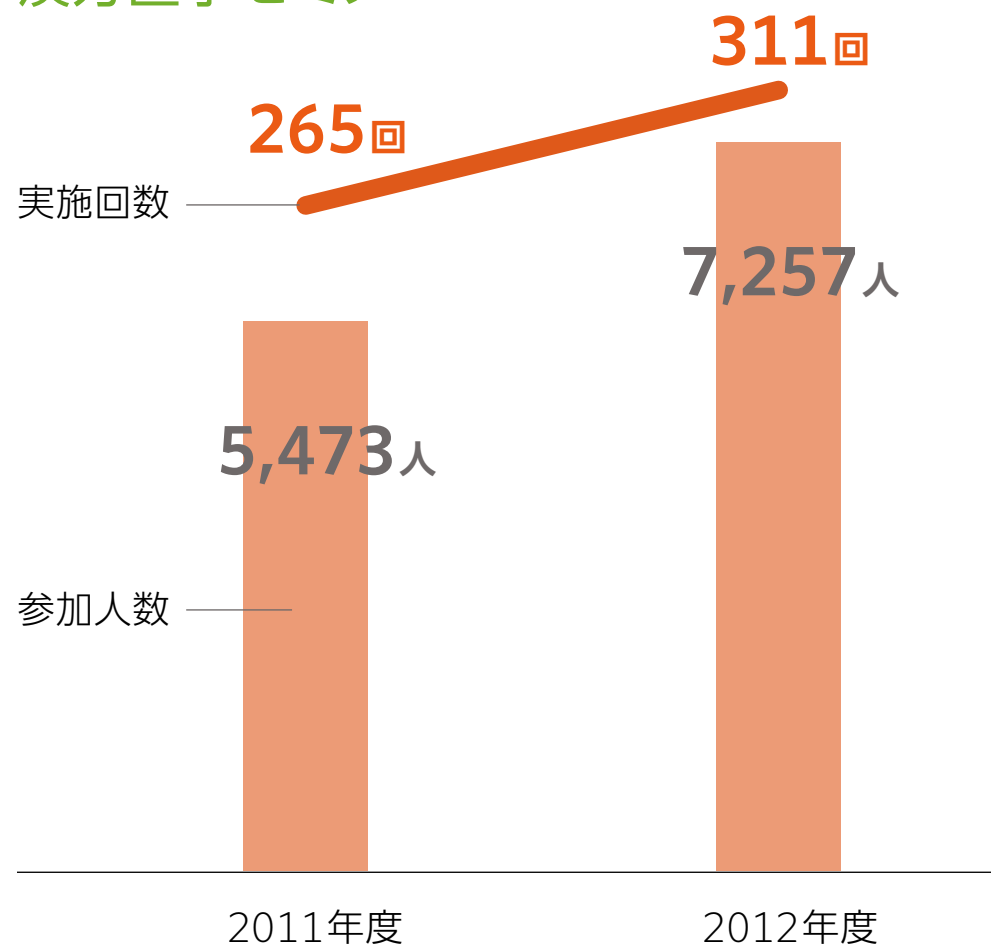
MR活動

医局説明会

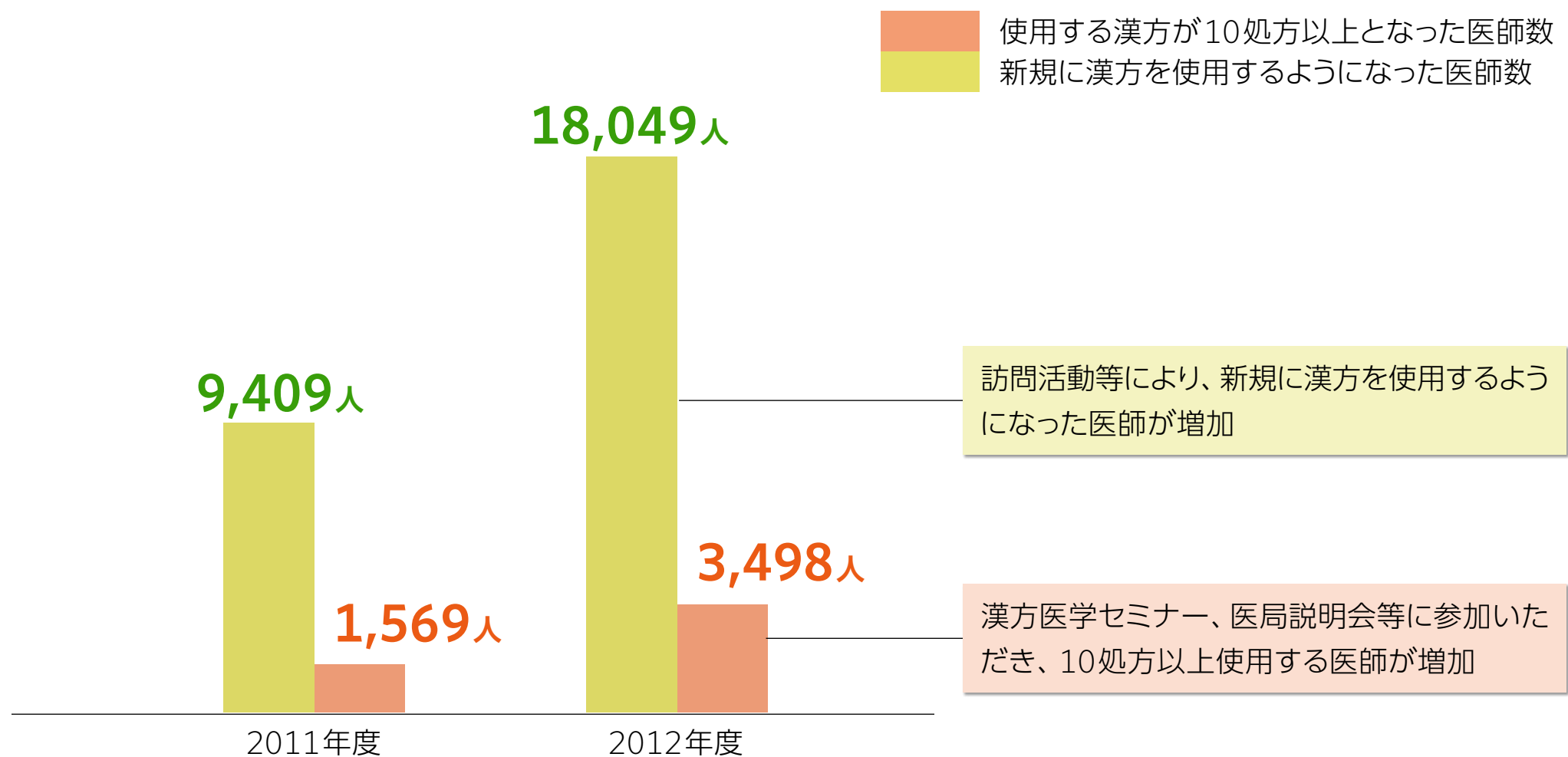
MR 1人当たりの年間実施回数



漢方医学セミナー

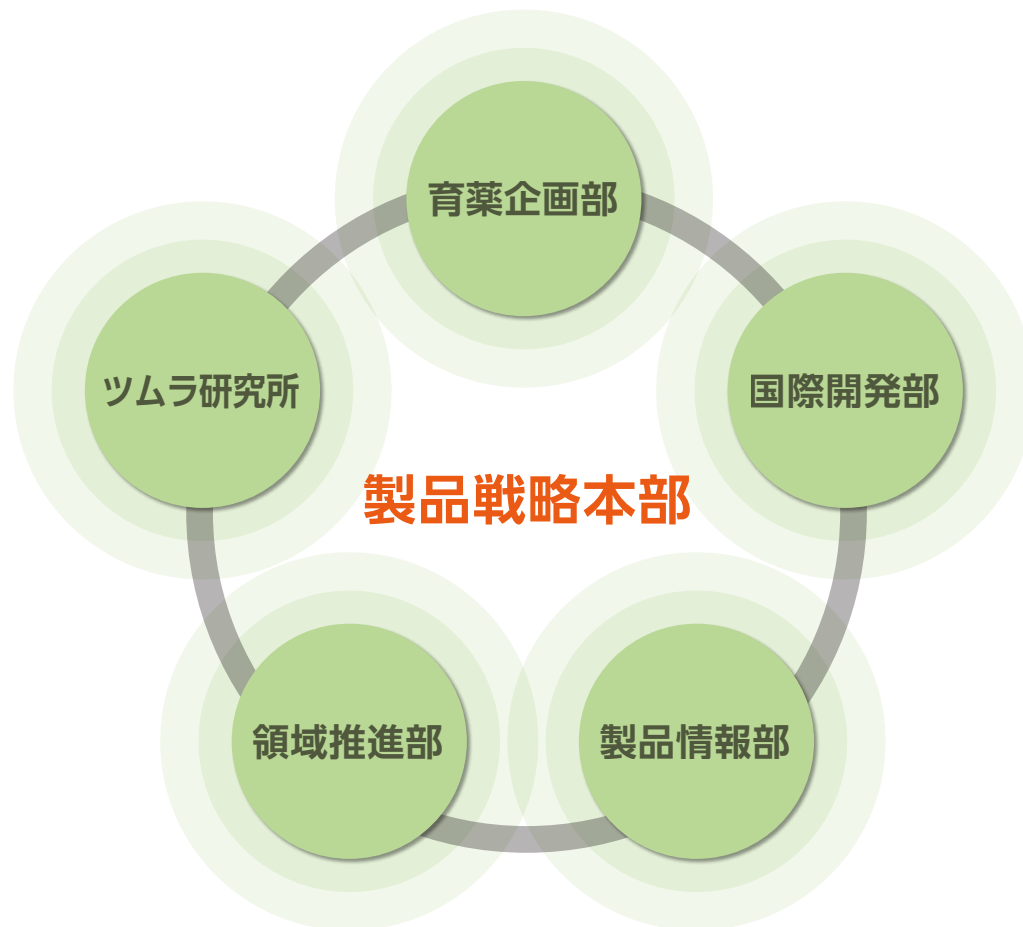


漢方処方医師数の増加



新組織によるエビデンス構築体制の強化

医療用漢方製剤の国内外の基礎・臨床研究ならびに
米国開発のより一層の推進



育薬5処方を中心とした
基礎・臨床的エビデンスの確立

副作用発現頻度調査や相互作用など
安全性データの構築

育薬5処方他の主要成分レベルでの
ADME (薬物動態) の解明

育薬処方のエビデンス構築状況 (DB-RCT & 安全性)

処方名	対象疾患・研究名称	実施団体・代表施設等	症例集積期間	公表状況等	備考
TJ-100 大建中湯	大腸癌術後腸管麻痺	北里大学 他 (DKTフォーラム大腸班)	2009年1月～2011年6月	日本外科学会総会 (2013年4月:福岡)	
	大腸癌術後腸管麻痺 (付随研究)	藤田保健衛生大学 他 (DKTフォーラム臨床薬理班)	2009年1月～2011年6月	日本外科学会総会 (2013年4月:福岡)	
	肝臓癌術後腸管麻痺	釧路労災病院 他 (DKTフォーラム肝外科班)	2010年2月～2011年5月	JDDW ¹ 2012 (2012年10月:神戸) 米国肝臓病学会 (2012年11月:ボストン)	
	胃癌術後腸管麻痺	大分大学 他 (DKTフォーラム胃食道班)	2011年1月～2012年12月	症例集積完了・解析準備中	
	JAPAN-PD STUDY (膵臓癌術後腸管麻痺)	和歌山県立医科大学 他 (ECRIN)	2012年8月～2014年8月	症例集積中	
	クローン病	慶應義塾大学 他	2012年6月～2014年5月	症例集積中	
TJ-43 六君子湯	機能的胃腸症	慶應義塾大学 他	2011年2月～2013年2月	解析作業中	科研費
	G-PRIDE STUDY (PPI抵抗性胃食道逆流症)	大阪市立大学 他 (ワックスマン財団)	2011年8月～2012年9月	DDW ² 2013 (2013年5月:オーランド)	
TJ-54 抑肝散	統合失調症	島根大学 他	2011年3月～2012年9月	米国生物学的精神医学会議 (2013年5月:サンフランシスコ)	科研費
	BPSD	東北大学 他	2011年2月～2013年1月	解析作業中	科研費
TJ-107 牛車腎気丸	GENIUS STUDY (FOLFOX末梢神経障害)	九州大学 他	2011年10月～2012年5月	試験中止	科研費
TJ-14 半夏瀉心湯	HANGESHA-C STUDY (大腸癌化学療法に伴う口内炎)	大阪医療センター 他 (ECRIN)	2010年10月～2012年5月	ESMO ³ (2012年10月:ウィーン) 日本癌治療学会 (2012年10月:横浜)	
	HANGESHA-G STUDY (胃癌化学療法に伴う口内炎)	神奈川県立がんセンター 他 (ECRIN)	2010年10月～2012年9月	解析作業中	
TJ-100 大建中湯	副作用発現頻度調査	—	2010年4月～2012年3月	Progress in Medicine誌 掲載 (2012年9月) 添付文書改訂 (2012年10月)	
TJ-54 抑肝散	副作用発現頻度調査	—	2012年10月～2014年3月	実施中	

1. Japan Digestive Disease Week (日本消化器関連学会週間) 2. Digestive Disease Week (米国消化器病週間) 3. European Society for Medical Oncology (欧州臨床腫瘍学会)

米国消化器病週間 (DDW) 漢方関連採択演題数推移

2013年 DDW
26* 演題採択 (過去最高)

大建中湯： 5* 演題

六君子湯： 18 演題

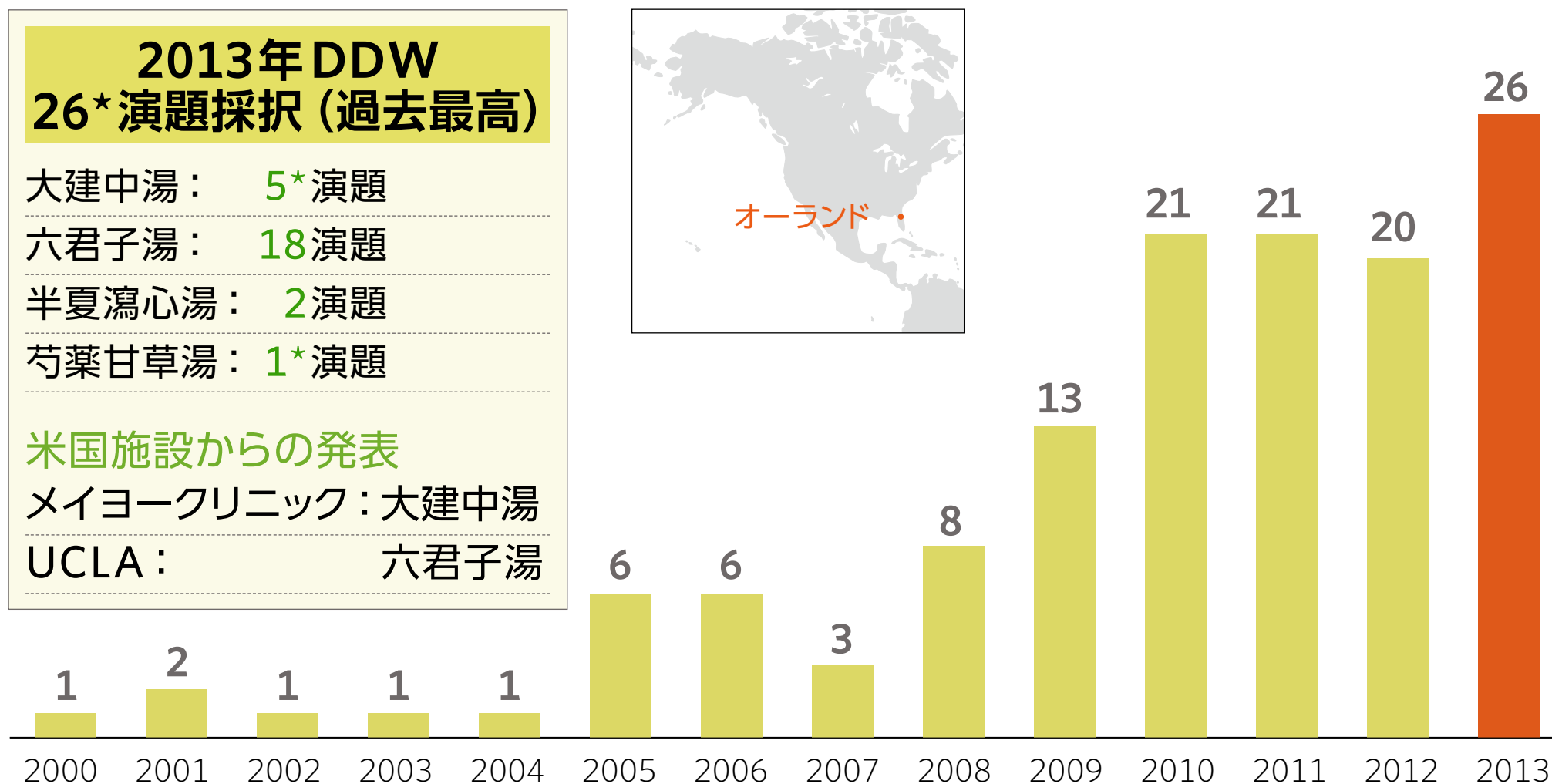
半夏瀉心湯： 2 演題

芍薬甘草湯： 1* 演題

米国施設からの発表

メイヨークリニック：大建中湯

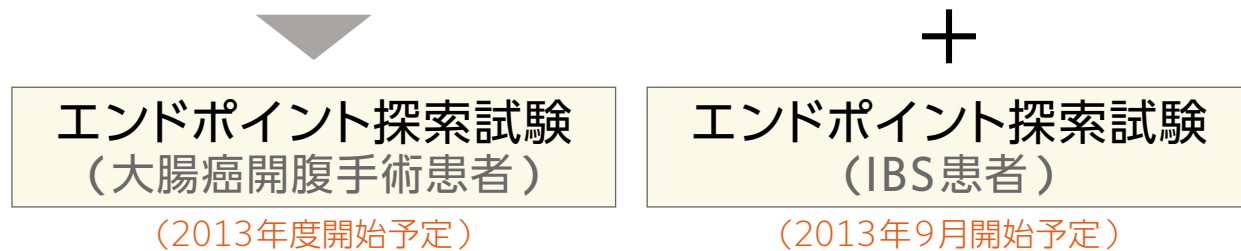
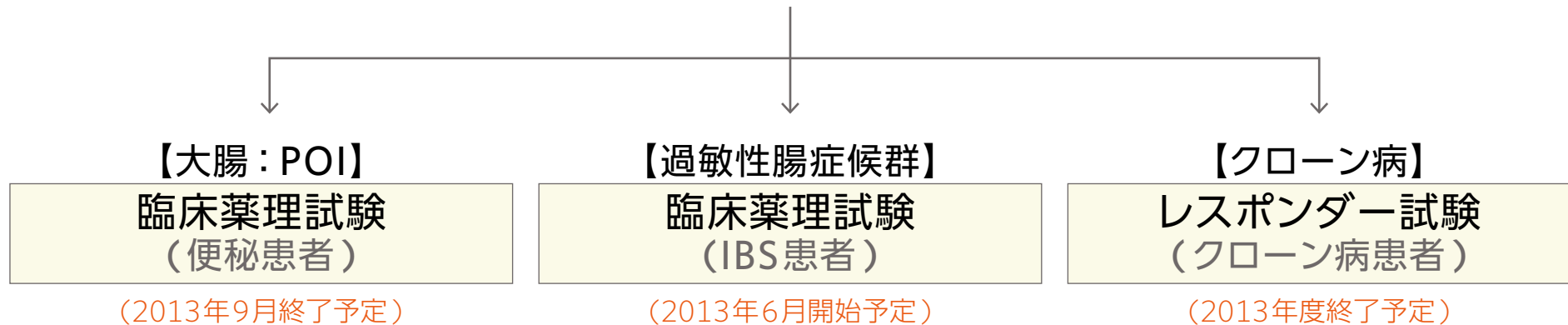
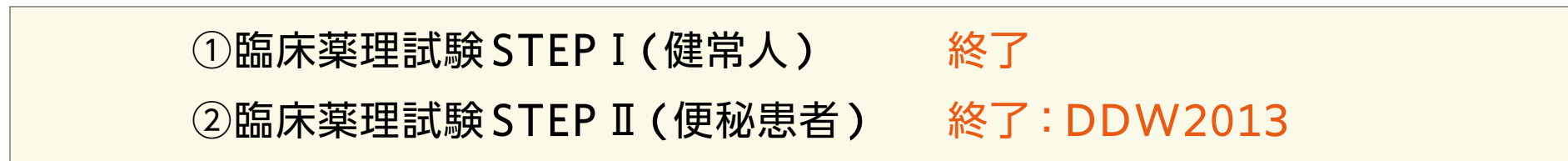
UCLA： 六君子湯



* 説明会時点では確認できなかった大建中湯に関する1演題、芍薬甘草湯1演題を追加しています。

TU-100 米国内臨床治験進捗状況

Phase II (前期)



TU-100 FDA 要求項目への対応状況

項目	計画期間	進捗状況
副作用発現頻度・長期投与時の安全性	2010年4月～2012年3月	調査終了 2012年10月 FDA 報告済
薬物動態試験（日本人対象）	2010年5月～2010年7月	DMD*誌 掲載済 2012年6月 FDA 報告済
薬物動態試験（米国人対象）	2011年6月～2011年9月	DMD*誌 掲載済 2012年12月 FDA 報告済
薬物動態試験（人種差） ※薬物動態学的統合解析	2012年4月～2013年5月	DMD*誌 掲載済 2013年6月 FDA 報告予定
腸内細菌に対する影響 ※シカゴ大学との共同研究	2011年6月～	研究結果 論文作成中 2014年度 FDA 報告予定
薬物トランスポーターに対する影響	2011年4月～2013年3月	2013年6月 FDA 報告予定
科学的品質評価法 （漢方製剤バイオアッセイ法）	2009年12月～	2013年9月 FDA公式ミーティング予定

* Drug Metabolism and Disposition

- 2015年度までに品質管理方法をFDAと合意
- 2016年度からPhase III試験の開始
- 申請・上市は2019～2020年度を目指す

生産におけるコスト構造改革の進捗

既存生産能力の向上および新生産技術の検討と導入により、「コスト構造改革」を進め、将来の製造原価率低減に資する基盤づくりを推進する

労働生産性 (対2011年度比)	2012年度は3.6%アップ 2013年度は8.9%アップを見込む
------------------	--------------------------------------

～ エキス粉末から顆粒・製品の製造にわたる生産能力の増強～

既設生産基礎能力の向上	改善活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・全工程において改善活動を継続実施
	稼働体制の変更	<ul style="list-style-type: none"> ・造粒工程は、2013年度より8時間3交替勤務から12時間2交替勤務へ ・包装工程は、2012年度より8時間3交替勤務から、全ライン中4割のラインで12時間2交替勤務を実施
新生産技術の検討と導入	省人化、省力化に対応した製造システムの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・新エキス粉末製造システム → 2016年度稼働予定 [茨城工場] ・新造粒システム → 2013年度稼働予定 [茨城工場] → 2015年度稼働予定 [静岡工場] ・新包装システム → 2015年度稼働予定 [静岡工場] ・ロボット技術の更なる活用 等

2015年度の労働生産性20%アップ (2011年度比) に向けて計画通り進捗中

2. 収益力の強化

国内生薬栽培拠点



新規拠点



熊本



センキュウ畑 (帯広)



ソヨウ畑 (岩手)



サイコ畑 (高知)

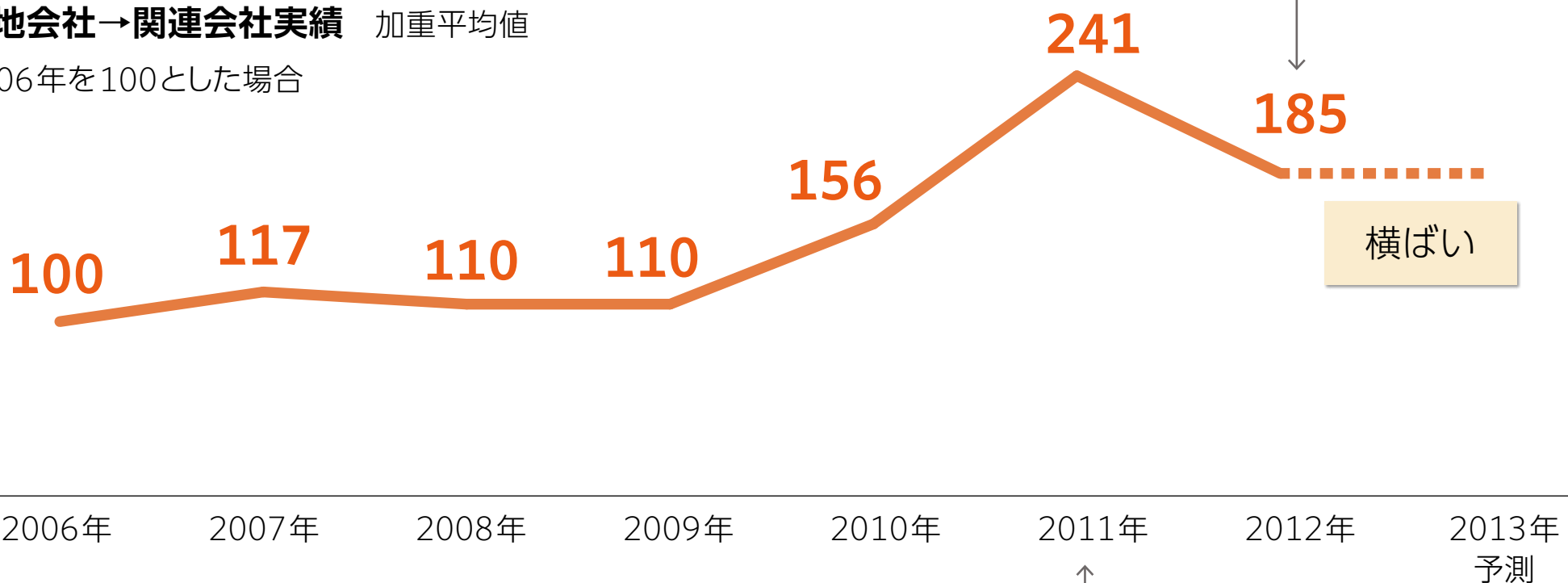
生薬価格の安定

中国産全生薬の購入価格

産地会社→関連会社実績 加重平均値

2006年を100とした場合

・ピークアウト後、23%程度下落 (ほぼ予測通り)
・今後は、横ばい状況になると予測 (計画通り)



↑
①中国国内での生薬需要増、
②天候不順、③投機的買占め

自社管理圃場の拡大等による原料生薬の価格安定化をめざす

設備投資計画

予定通り進捗

- 2012～2015年度総額約550億円
- 漢方製剤の数量増に見合った設備投資

		第1期中期経営計画				第2期	
		投資案件	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度以降
生産 関連	静岡工場	新造粒包装棟など				☆	
		新生薬倉庫		5月			
		S Dライン関連					☆
	茨城工場	新造粒棟		7月			
		新規製造棟など					☆
	技術品質	生産技術・漢方製剤開発	→				
STP (上海)	S D棟		10月				
生産その他	維持・更新など	→					
生薬 関連	石岡	石岡センター再構築		12月			
	STM (深圳)	倉庫	3月				
	夕張	夕張ツムラ 建屋				☆	
	生薬その他		→				

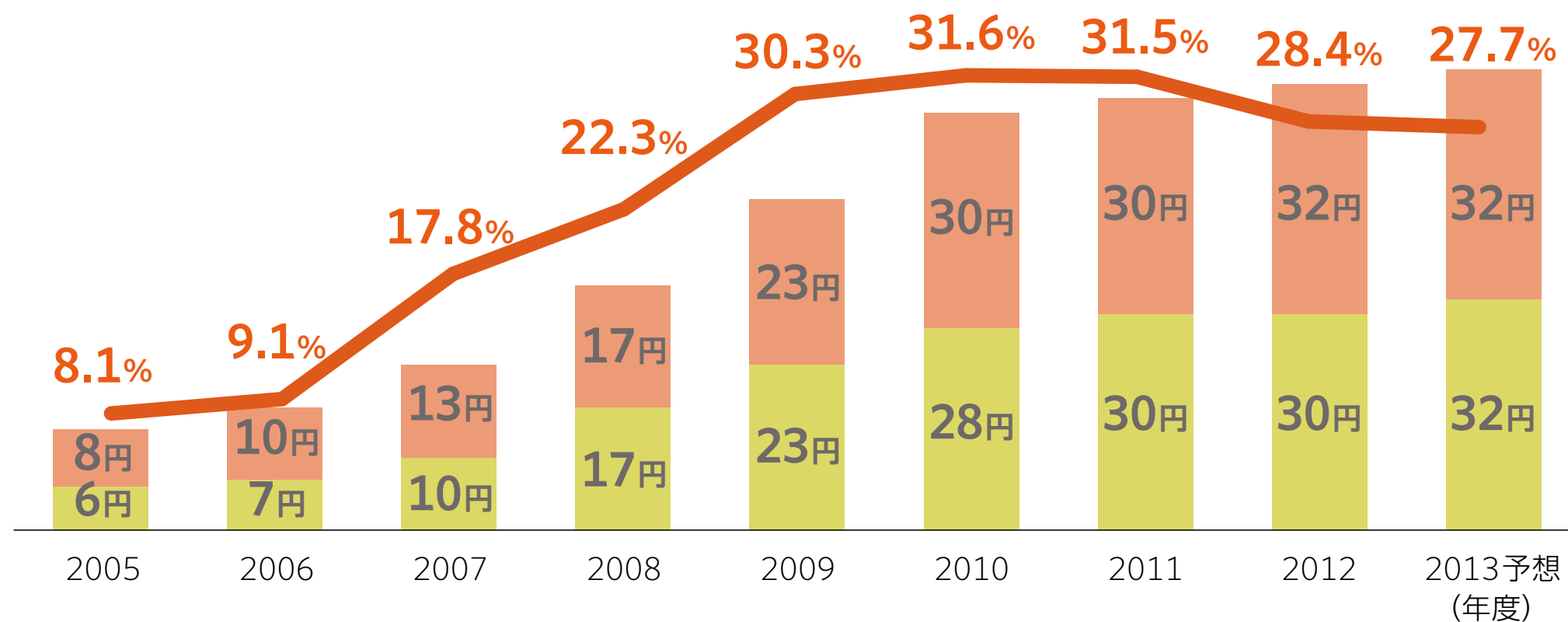
☆稼働予定時期

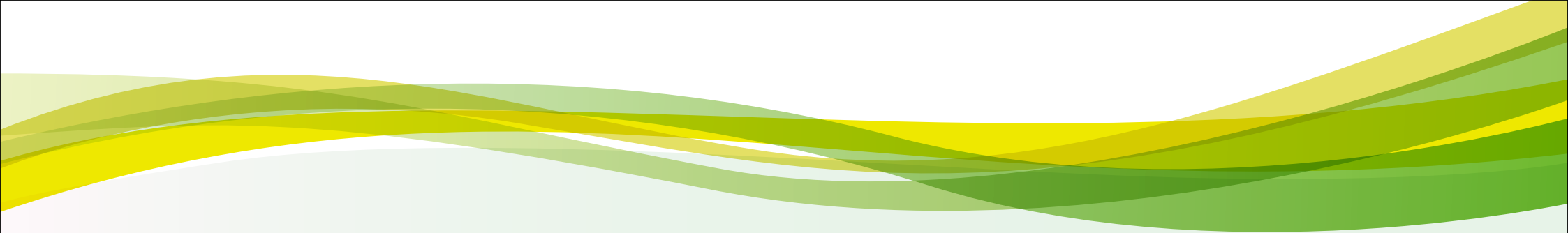
設備投資額：2012年実績95億円 2013年度は153億円予定

株主還元

配当方針

- “漢方”が持続的に発展・成長するための事業投資を通じた企業価値向上
- 中長期の利益水準等を勘案し、安定配当を実施





2014年3月期業績予想

2014年3月期 業績予想

(百万円)

	2013年3月期	2014年3月期	比較増減	
売上高	105,638	112,000	6,361	6.0%
営業利益	23,124	24,700	1,575	6.8%
経常利益	24,310	25,100	789	3.2%
当期純利益	15,373	16,300	926	6.0%

	2013年3月期	2014年3月期
営業利益率	21.9%	22.1%
配当金 (1株当たり)	62円	64円
EPS	217.98円	231.12円
ROE	14.1%	13.3%

本資料に関するお問い合わせ先

株式会社ツムラ
コーポレート・コミュニケーション室
IR推進グループ
TEL : 03-6361-7101

見通しに関する注意事項

- 本資料中の中期経営計画の目標数値はあくまで目指す方向性等を示すものであり、正式な業績予想ではありません。正式な業績予想は東京証券取引所規則に基づく年次決算短信での開示をご参照ください。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。従って、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。
- 日本ならびにその他各国政府による医療保険制度や薬価等の医療行政に関する規制が変更された場合や、金利、為替の変動により、業績や財政状態に影響を受ける可能性があります。
- 現在発売している主要製品が、万が一製品の欠陥、予期せぬ副作用などの要因により、販売中止となったり、売上が大幅に減少した場合、業績や財政状態に大きな影響を及ぼします。